

# < 実践事例 葛飾区立高砂小学校 >

## 1. 取組・活動名

「自らのベストを目指して努力し、他者と関わり合い、力を発揮する」

## 2. 取組・活動のねらい

- 車いすパラパワーリフティング選手を講師として招き、自分を見つめて高めていく心情や他者を尊重し合っよりよく生きる心情を養う。
- 保護者や地域住民が道徳の授業である本講演会に参加し、「心の教育」について共に考える場とする。

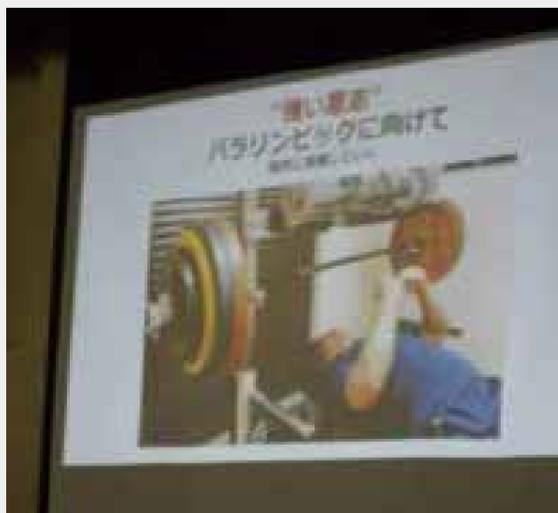
## 3. 教育課程上の教科名・時数

「特別の教科 道徳・1時間」他

## 4. 実施上の工夫

- ・オリンピック・パラリンピック選手の生き方や考え方に直接触れることを通して、夢や希望、向上心を持ち、「今、何をすべきか。」を考え、目標に向かって努力しようとする心情を育てる。
- ・東京都道徳教材資料集やオリンピック・パラリンピック学習読本を資料として活用する。
- ・講演会の内容や児童の感想等を各家庭に「道徳だより」として配布する。

## 5. 本取組・活動の内容



### 「パラリンピアン講演会」

- ・映像も交えながら日々の生活やパワーリフティングの練習や大会について、講師の方から御講演をいただいた。
- ・講演には、400名以上の保護者や地域の方々に参加していただいた。



- ・講演を聞いて、「これからは、今まで以上に何事にも全力で挑戦し、前向きに生きていきたい。」「パラリンピック選手の宇城さんの表情は力強く、とても印象に残った。」という感想が、どの学年の児童からも挙がった。



- ・全校児童への講演後、5・6年生と実演も取り入れた時間も設定した。
- ・「困難を体験したことで、人の痛みが分かり、それを思えるような強い人になれるんだと思った。」「足を失っても前を向いて、また新たな道に進んで世界で活躍するのは本当にすごいと思った。」という高学年らしい感想が挙がった。

## 6. 成果

- ・「パラパワーリフティング」というパラリンピック種目を間近で見ること、東京2020オリンピック・パラリンピック大会への関心をより一層高めることができた。
- ・障害を受け入れ、練習や大会に挑み続けるパラリンピック選手の話聞くことで、困難な状況に陥っても逃げ出さずに努力し続けていくことの大切さを学ぶことができた。
- ・障害のあるパラリンピックの選手との交流を通して、身近なところで出会う障害のある方々との関わり方について、様々な感じ方や考え方をもつ時間となった。そして、ボランティア・マインドの育成につなげていくことができた。
- ・保護者・地域へのオリンピック・パラリンピック教育に対する理解を深めると共に、家族の会話の内容に取り上げられ、「心の教育」を考える機会になった。